

第2章 子育てを取り巻く現状

(1) 少子化の状況

①人口の動向

本市の総人口は、近年その伸び率が鈍化しているものの、一貫して増加傾向にあり、平成16年4月1日現在（以下「平成16年現在」）で305,380人となっています。

年齢3区分別人口の推移をみると、14歳以下の年少人口は、昭和55年時点で65,847人と、総人口の23.5%を占めていましたが、平成16年現在では46,589人と、総人口の15.3%まで減少しています。

これに対して、65歳以上の老年人口は、昭和55年時点の27,955人（総人口に占める割合10.0%）から、平成16年現在の56,779人（同18.6%）へと増加しています。

今後も、このような少子高齢化がさらに進行していくものと予測され、平成21年には、年少人口は45,029人（総人口に占める割合14.7%）まで減少し、老年人口は63,400人（同20.8%）に増加するものと見込まれます（図表1、2）。

■図表1 人口の推移■（上段：人口、下段：総人口に対する割合）

	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成16年	平成21年
総人口(人)	280,291	288,574	294,665	302,741	304,884	305,380	305,514
年少人口 (0～14歳)	65,847 23.5%	64,781 22.4%	57,832 19.6%	53,030 17.5%	48,147 15.8%	46,589 15.3%	45,029 14.7%
生産年齢人口 (15～64歳)	186,440 66.5%	192,191 66.6%	198,960 67.5%	205,994 68.0%	204,550 67.1%	202,012 66.2%	197,085 64.5%
老年人口 (65歳以上)	27,955 10.0%	31,588 10.9%	36,613 12.4%	43,653 14.4%	51,616 16.9%	56,779 18.6%	63,400 20.8%

資料／昭和55～平成12年：国勢調査（10月1日現在）

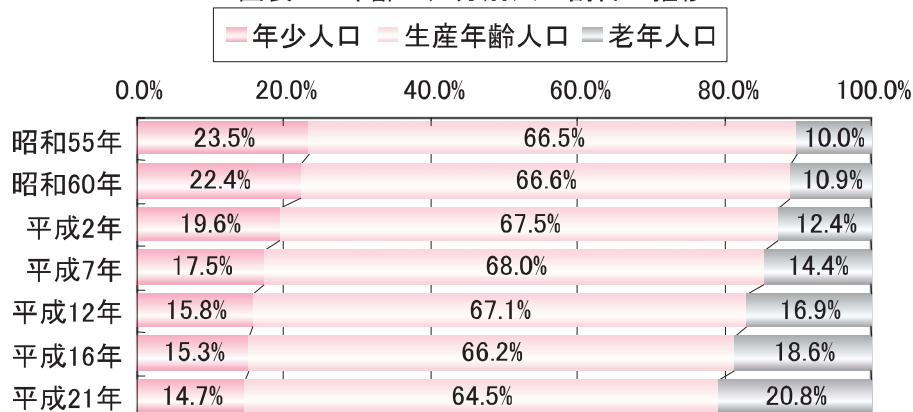
※総人口は年齢不詳を含むため各区分の和と異なる場合がある。

平成16年：住民基本台帳（4月1日現在）

平成21年：住民基本台帳データ等に基づくコーホート変化率法による推計値。

（注）この計画書に掲載している統計データは、特別な記載がない限り、旧1市4町の数値を合計（以下も同様）。

■図表2 年齢3区分別人口割合の推移■



資料／昭和55～平成12年：国勢調査（10月1日現在）

平成16年：住民基本台帳（4月1日現在）

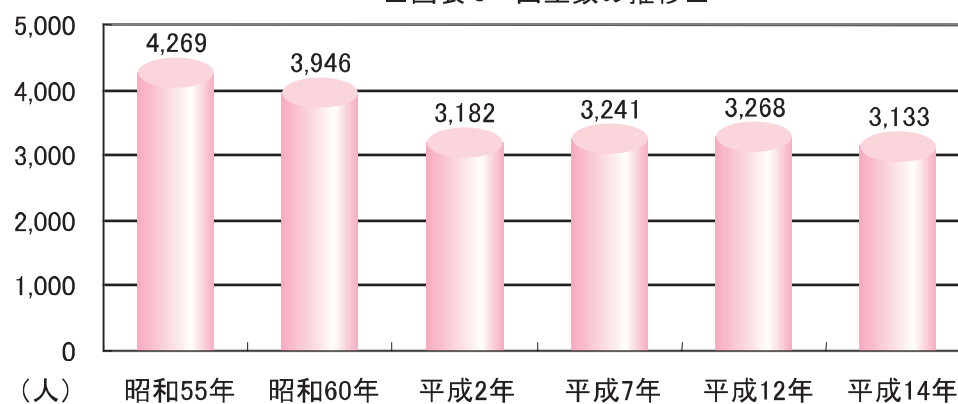
平成21年：住民基本台帳データ等に基づくコーホート変化率法による推計値。

②出生の状況

出生数は、平成2年以降、年間3,200人前後で推移しており、緩やかに減少しています(図表3)。

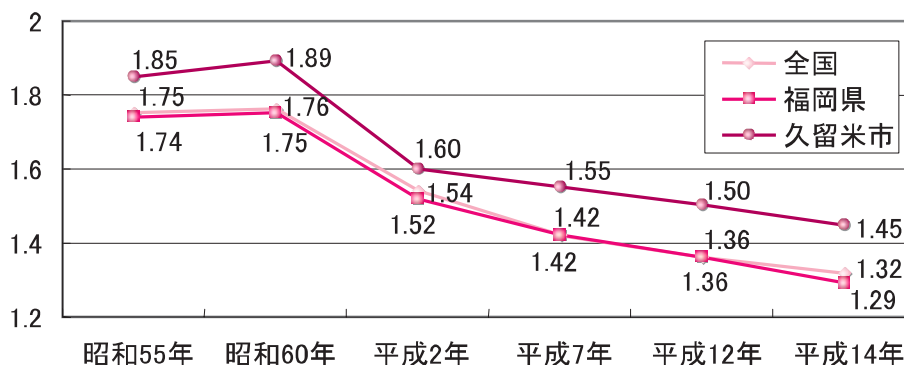
また、一人の女性が一生のうちに産む子どもの平均数である合計特殊出生率をみると、全国・福岡県・本市のいずれにおいても、人口を維持するのに必要な値である2.08を下回り、低下の一途をたどっています。本市は、全国・福岡県に比べてやや高い水準で推移しているものの、低下傾向にあり、少子化が進行していることがわかります(図表4)。

■図表3 出生数の推移■



(人) 昭和55年 昭和60年 平成2年 平成7年 平成12年 平成14年
資料/人口動態統計

■図表4 合計特殊出生率の推移■



資料/全国・福岡県：人口動態統計
久留米市：人口動態統計等をもとに算出

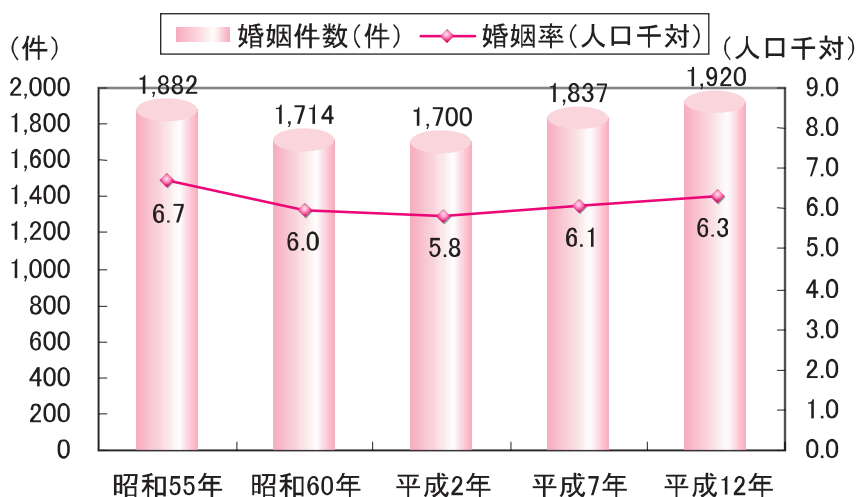
③婚姻の状況

少子化の主たる要因の一つとして、結婚しない人の増加（未婚化）や、結婚年齢の上昇（晩婚化）が指摘されています。

婚姻件数・婚姻率の推移をみると、婚姻件数は年間1,700～1,900件前後で推移しています。また、婚姻率は、全国や福岡県とほぼ同率の6.0前後で推移しています（図表5）。

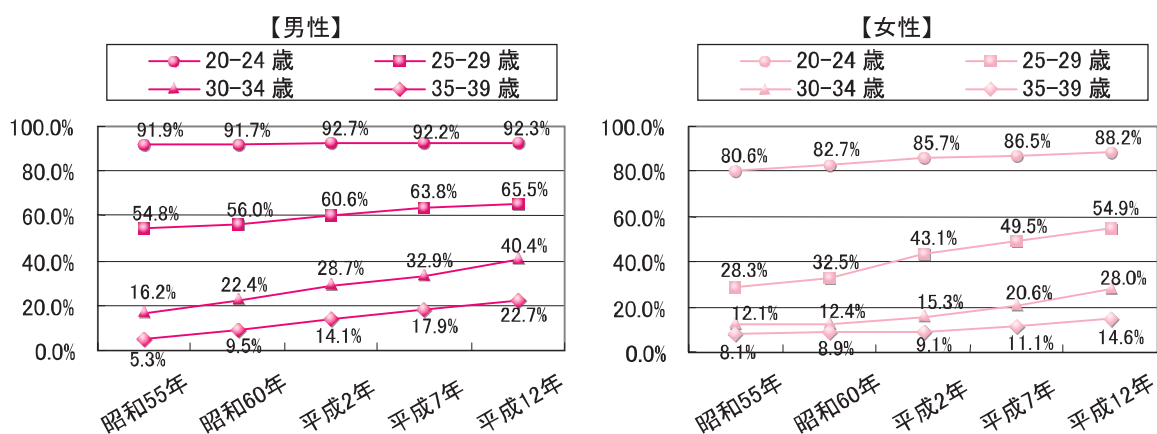
性・年齢別の未婚率をみると、男女とも、20・30歳代のすべての年齢階層において、未婚率が上昇しています。特に、30歳代前半の男性や20歳代後半の女性で、未婚率の上昇が顕著です（図表6）。

■図表5 婚姻件数・婚姻率（人口千対）の推移■



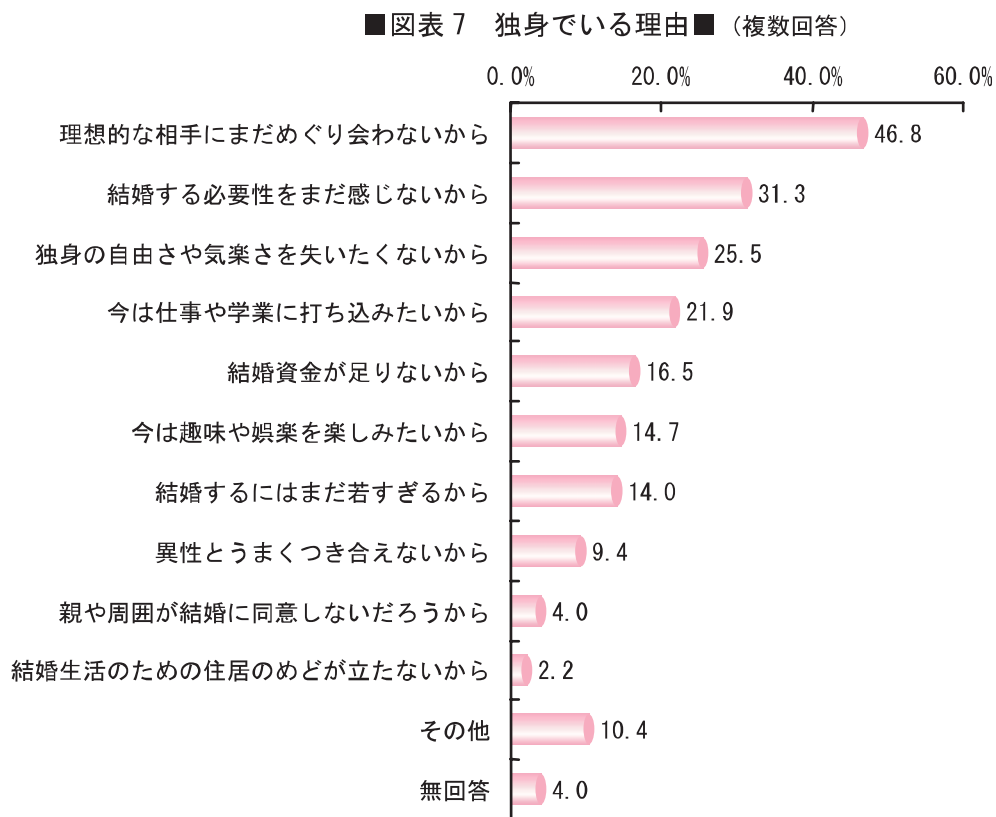
資料／人口動態統計

■図表6 未婚率の推移■



資料／国勢調査

意識調査によると、未婚者が独身でいる理由としては、「理想的な相手にまだめぐり会わないから」（46.8%）、「結婚する必要性をまだ感じないから」（31.3%）、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」（25.5%）などが上位にあがっています（図表7）。



資料／次世代育成支援に関する意識調査〔一般成人用〕（平成15年度）
（注）旧久留米市地区のみ実施

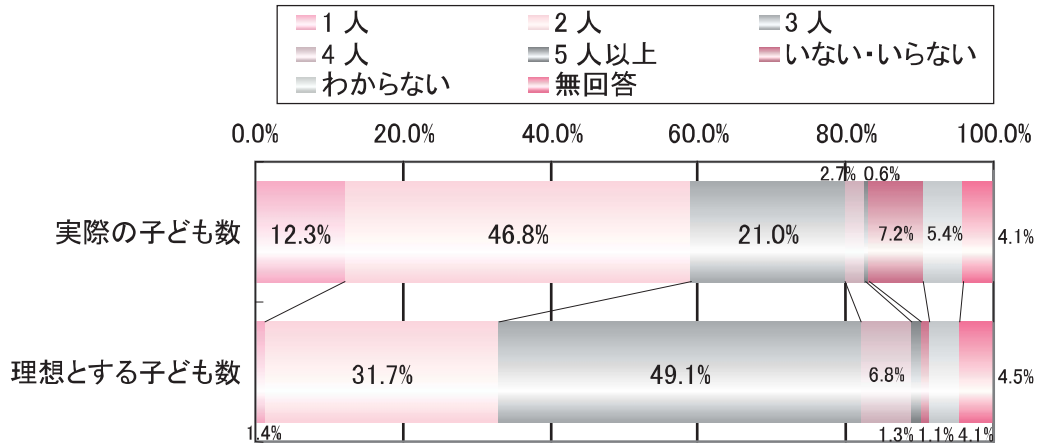
④理想とする子ども数と実際の子ども数

平成14年1月に公表された「日本の将来推計人口」では、少子化の新たな要因として「夫婦の出生力そのものの低下（夫婦の間に生まれる子どもの数が少なくなっているという現象）」という傾向が指摘されています。

実際の子ども数と理想とする子ども数の関係を見ると、理想では「3人」（49.1%）、実際では「2人」（46.8%）が最も多くなっており、理想と現実の格差が見られます（図表8）。

実際の子ども数が理想とする子ども数より少ない理由としては、「お金がかかるから」（33.1%）や「健康上または年齢的な理由で無理だから」（21.0%）、「仕事と子育ての両立が困難だから」（20.4%）などが上位にあがっています（図表9）。

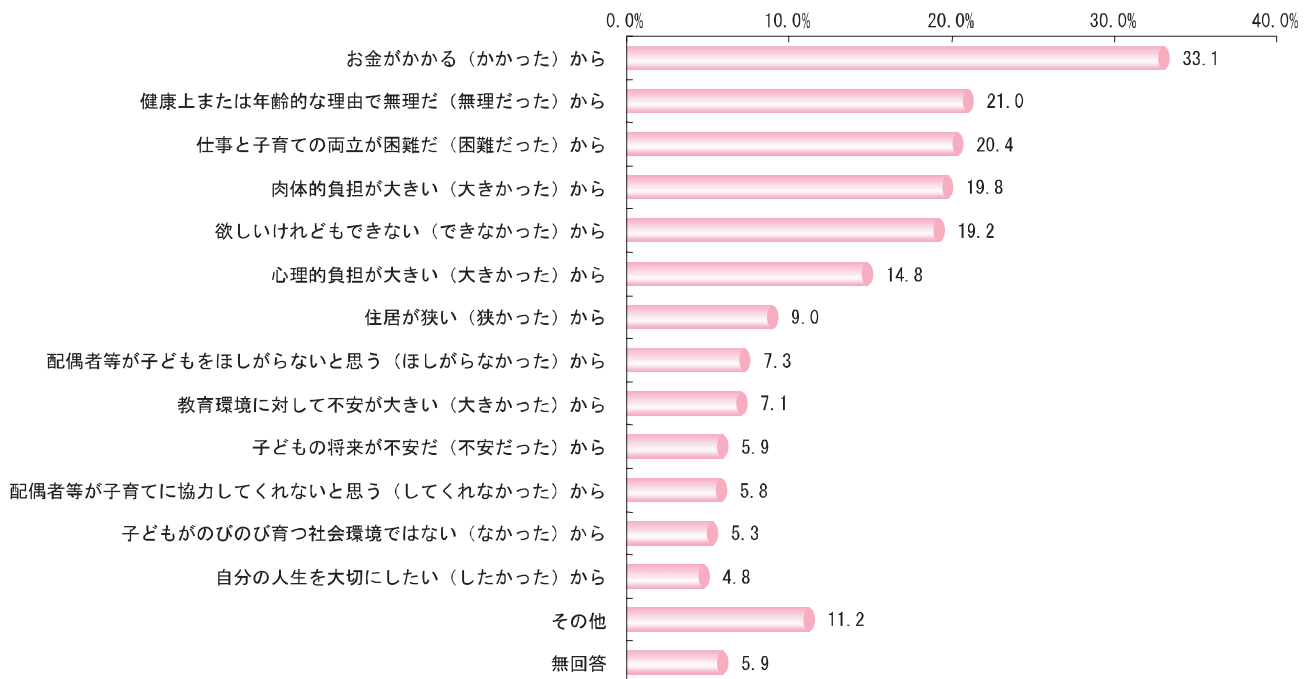
■図表8 実際の子ども数と理想とする子ども数■



資料/次世代育成支援に関する意識調査 [一般成人用] (平成 15 年度)

(注) 旧久留米市地区のみ実施。「実際の子ども数」は「実際に持った、または持つつもりの子ども数」

■図表9 実際の子ども数が理想とする子ども数より少ない理由 (複数回答)■



資料/次世代育成支援に関する意識調査 [一般成人用] (平成 15 年度)

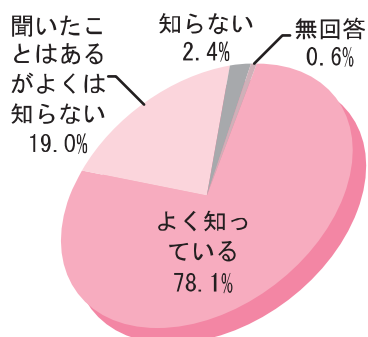
(注) 旧久留米市地区のみ実施

⑤少子化に対する意識

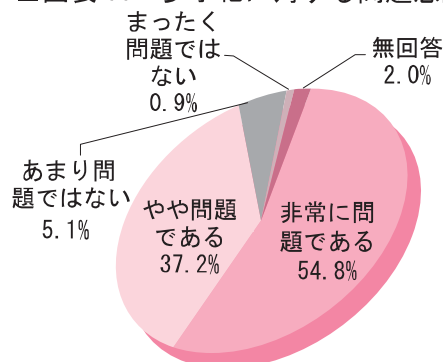
意識調査によると、20歳以上のほぼ全員が少子化（出生率の低下）について認知しています（図表10）。また、9割以上の人々が少子化を問題視しており、少子化に対する危機感・問題意識は非常に高いといえます（図表11）。

少子化の原因については、「子どもの生活費や教育費がかかりすぎるから」（70.9%）が2位以下を大きく引き離して最も割合が高く、次いで「家庭と仕事の両立が困難だから」（34.7%）、「将来の子どもを取り巻く環境に不安を感じる人が増えているから」（33.5%）、「子どもより自分たちの生活を充実させたいと考える人が増えたから」（32.9%）、「結婚平均年齢が上昇したから」（29.8%）、「子どもは少なく生んで質の高い教育を受けさせたい人が増えたから」（25.2%）、「出産等に対する配偶者等の理解が足りず一方の負担が大きいから」（20.4%）、「住宅事情が悪いから」（5.5%）、「定年までに成人してほしいと考え出産を制限する人が増えたから」（4.9%）、「介護や看護の必要な人が家族にいて子育てとの両立が困難だから」（1.9%）、「その他」（4.4%）、「無回答」（1.2%）などとなっています（図表12）。

■図表10 少子化の認知度■

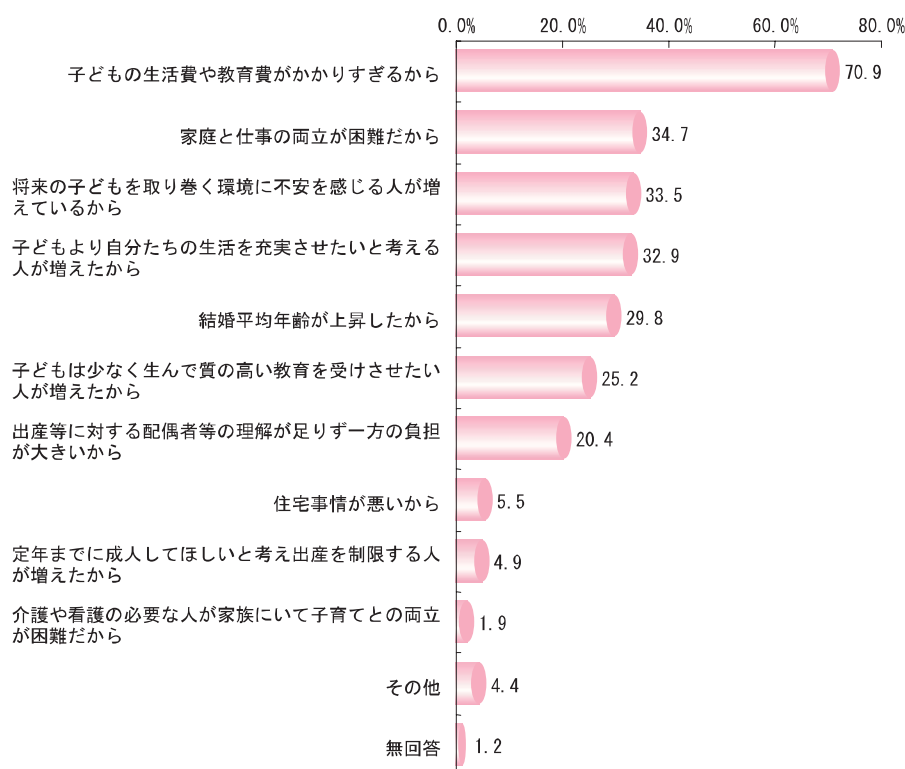


■図表11 少子化に対する問題意識■



資料／次世代育成支援に関する意識調査〔一般成人用〕（平成15年度）
（注）旧久留米市地区のみ実施

■図表12 少子化の原因■（複数回答）



資料／次世代育成支援に関する意識調査〔一般成人用〕（平成15年度）（注）旧久留米市地区のみ実施

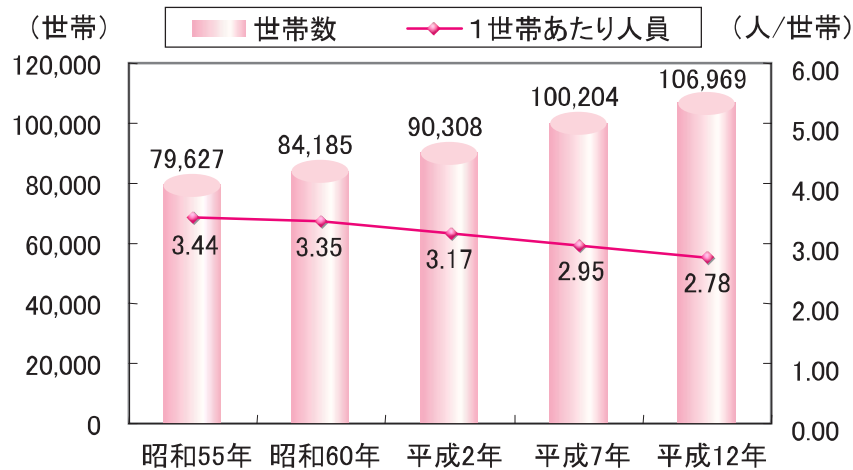
(2) 子育て家庭の状況

① 世帯構造の変化

一般世帯（寮や病院、社会施設等の施設等を除いた世帯）の推移をみると、世帯数は増加していますが、一世帯あたり人員は減少しており、平成12年時点で2.78人と、世帯規模は縮小傾向にあります（図表13）。

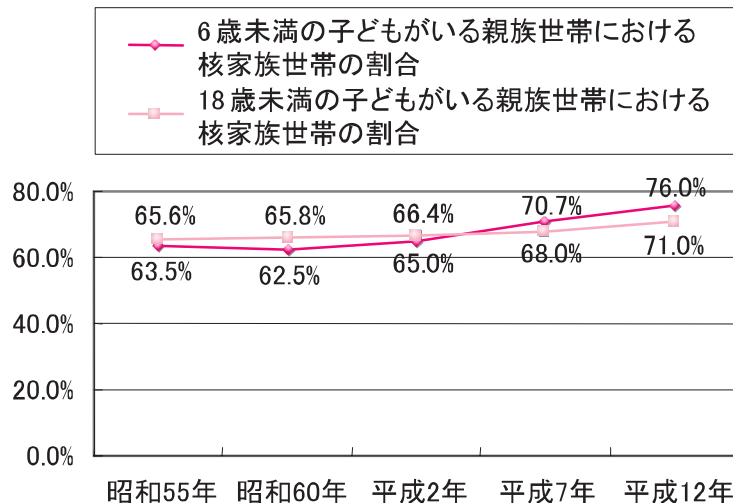
子育て家庭（18歳未満の子どもがいる親族世帯）の中で、親と子のみの核家族世帯が占める割合の推移をみると、昭和55年以降、一貫して上昇傾向にあり、平成12年時点では、子育て家庭の7割以上が核家族世帯となっています。特に、近年では、子育てに手がかかる6歳未満の子どもがいる世帯で核家族化が進んでいます（図表14）。

■図表13 一般世帯の推移■



資料/国勢調査

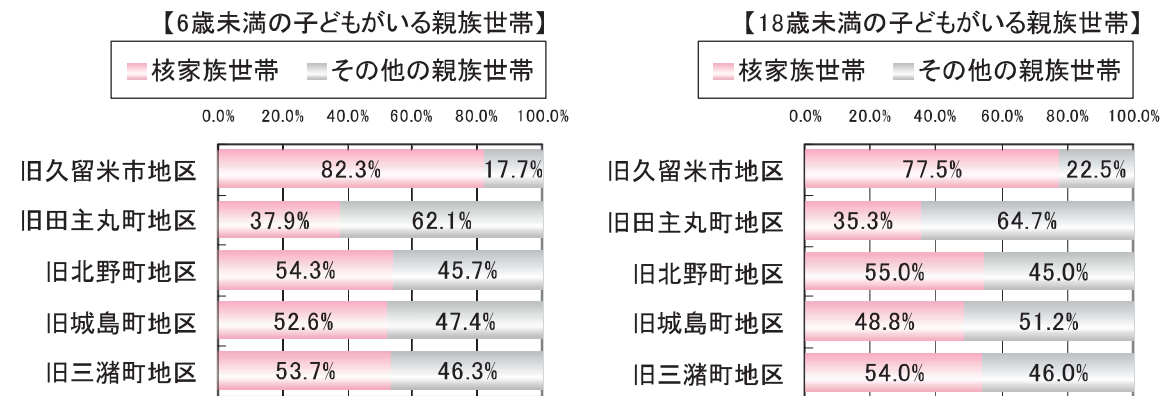
■図表14 子育て家庭における核家族世帯の割合の推移■



資料/国勢調査

子育て家庭の世帯構造について、地区別に詳しくみると、旧久留米市地区では、核家族世帯が8割近くを占めており、子育て家庭の核家族化が最も進んでいます。これに対して、旧田主丸町地区では核家族世帯の割合は3割台と最も低く、他の地区に比べて、その他の親族世帯（親・子・孫の三世帯世帯など）の占める割合が高いことがわかります。旧北野町地区・旧城島町地区・旧三潯町地区では、子育て家庭のほぼ半数が核家族世帯となっており、子育て家庭の世帯構造には、地区によって大きな差がみられます（図表15）。

■図表 15 子育て家庭の世帯構造■



資料／国勢調査（平成12年）

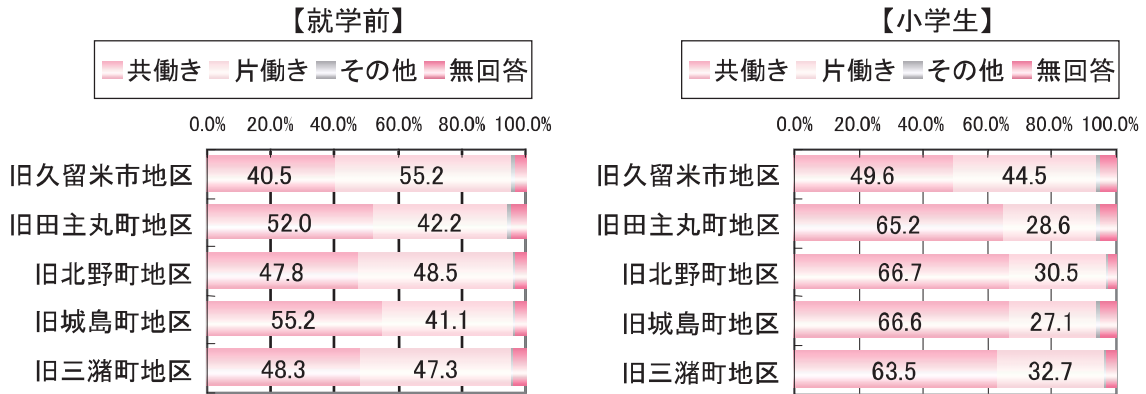
②保護者の就労などの状況

保護者の就労状況を見ると、就学前児童のいる家庭では「共働き」と「片働き（父母のいずれかが就労している場合。ひとり親家庭の保護者が就労している場合も含む。）」が概ね半数ずつとなっています。小学生のいる家庭では、就学前児童のいる家庭に比べて「共働き」の割合が高く、子育てが一段落するとともに、働き始める保護者が増えることがわかります。地区別にみると、旧久留米市地区は、他地区に比べて共働き世帯の割合が低くなっています。これは、旧久留米市地区が他地区に比べて、子育て家庭における核家族世帯の割合が高いことが一因と考えられます（図表15、16）。

就労している保護者の残業の状況を見ると、父親は母親に比べて残業する割合が高く、父親の4～6割前後がほぼ毎日残業しています（図表17）。

また、育児休業の取得経験（現在育児休業中、または過去に取得経験がある人）を見ると、母親の2割以上に取得経験があるのに対して、父親では1%前後と極わずかです（図表18）。

■図表 16 保護者の就労状況■

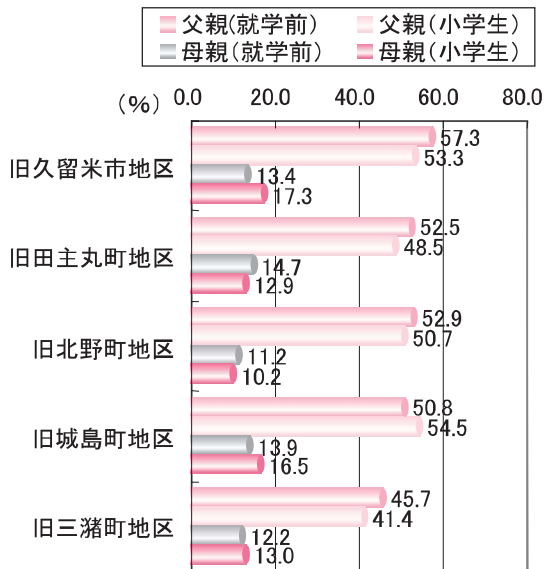


資料／次世代育成支援に関するニーズ調査[就学前児童用・小学生用]（平成15年度）

（注）「次世代育成支援に関するニーズ調査」は、旧1市4町それぞれで実施したものであり、その結果については、特別な記載がない限り、地区ごとに表示（以下も同様）

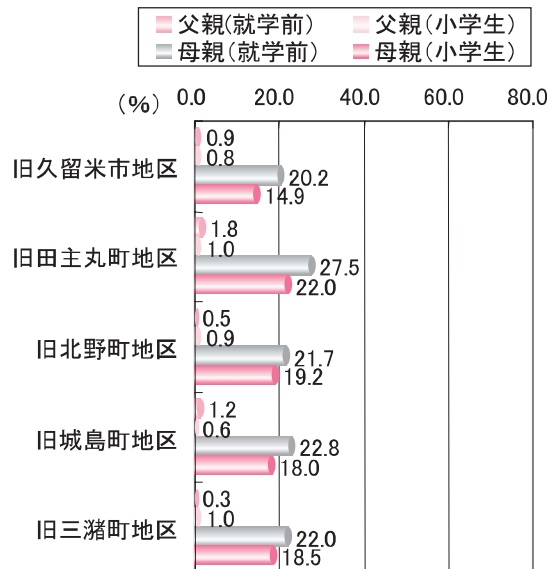
■図表 17 保護者の残業の状況■

（ほぼ毎日残業する者の割合）



■図表 18 保護者の育児休業取得経験■

（育児休業中または取得経験がある者の割合）

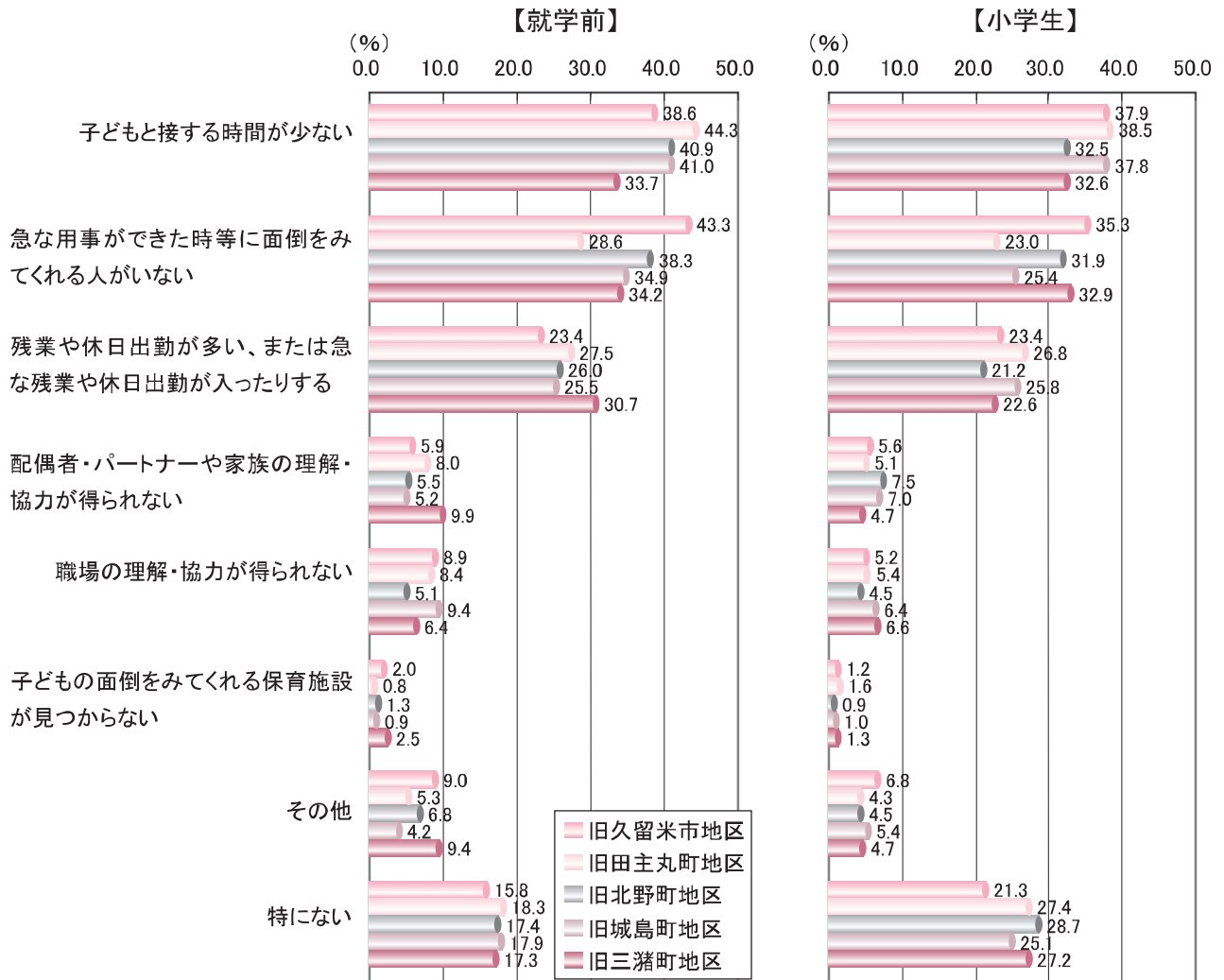


資料／次世代育成支援に関するニーズ調査[就学前児童用・小学生用]（平成15年度）

（注）図表18の値は、調査に回答した就学前児童・小学生の保護者のうち、現在育児休業中、または、過去に取得経験があると回答した人の割合であり、国の統計等で用いられる「育児休業取得率」とは異なる。

就労している保護者が、子育てと仕事を両立させる上で大変だと感じていることは、子どもと接する時間が少ないことをはじめ、緊急時に面倒を見てくれる人がいないこと、残業や休日出勤が多いことなどとなっています（図表19）。

■図表19 子育てと仕事を両立させる上で大変だと感じること■（複数回答）



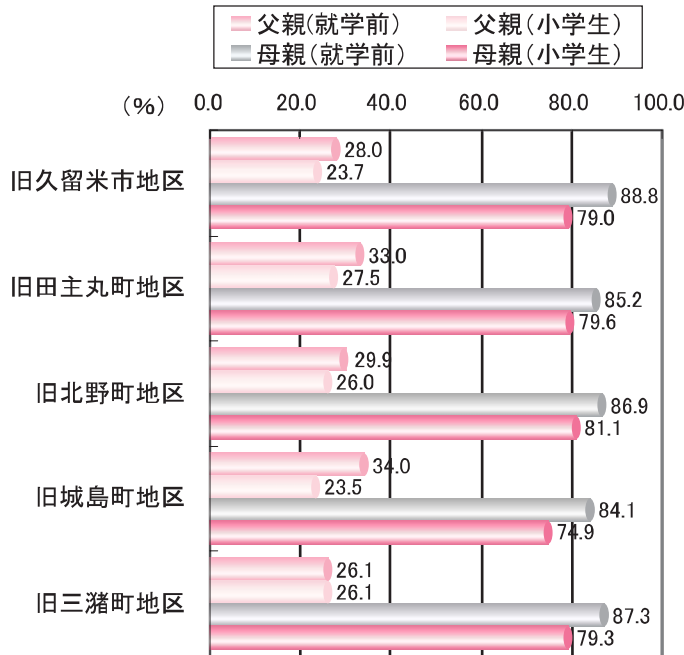
資料／次世代育成支援に関する二一ズ調査[就学前児童用・小学生用]（平成15年度）

③子育てへの関わり

保護者の子育てへの関わり方をみると、母親は7～8割と大半の人が子育てに十分関わっていますが、父親は2～3割に留まっており、父親の子育てへの関わりが十分でないことがわかります（図表20）。

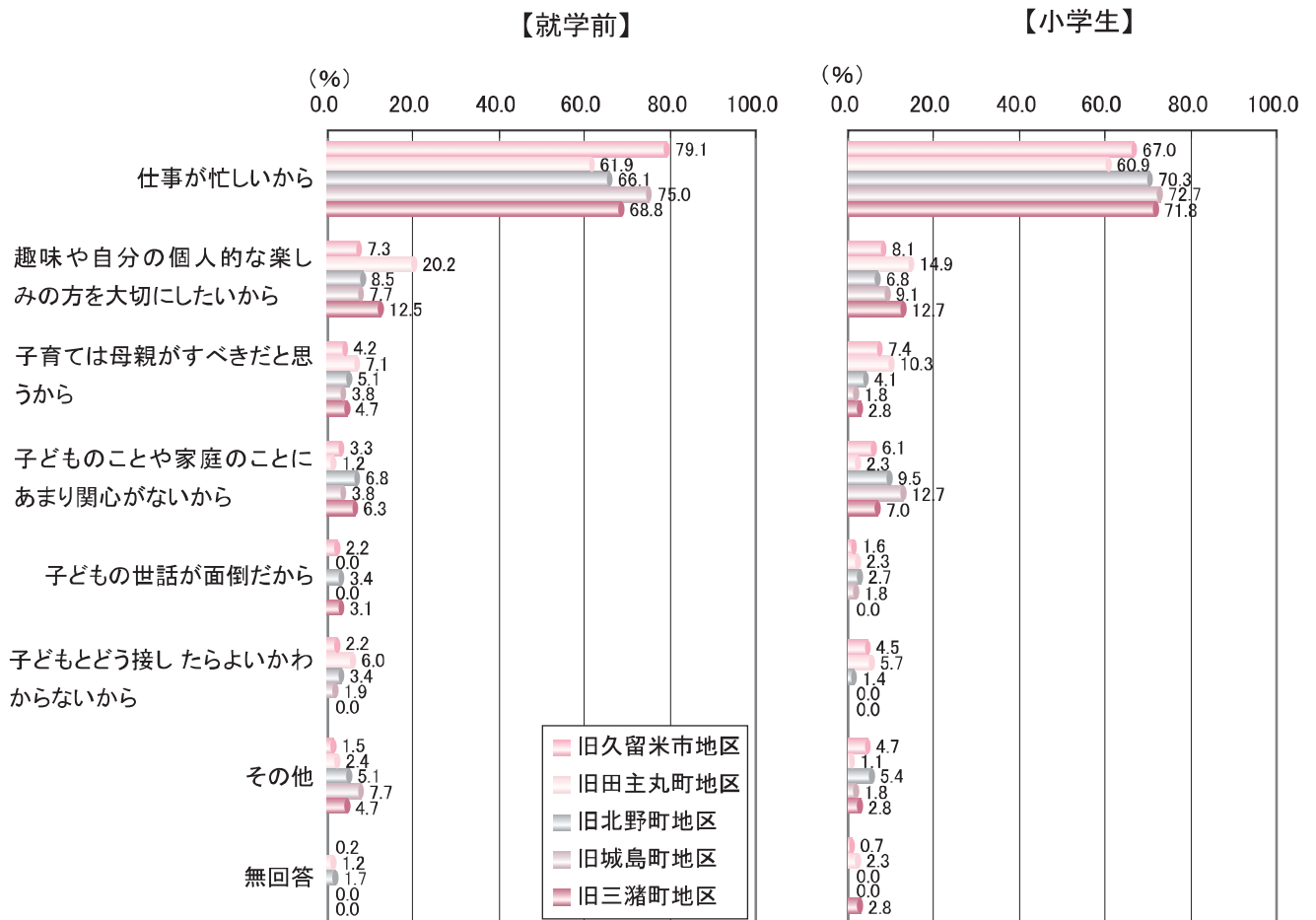
父親が子育てに十分関われない理由をみると、多くの父親が仕事が忙しいために、子育てに十分関われないと回答しています（図表21）。

■図表 20 子育てへの関わり（子育てに十分に関わっている者の割合）■



資料/次世代育成支援に関する二一ス調査[就学前児童用・小学生用]（平成15年度）

■図表 21 父親が子育てに関われない理由■（複数回答）



資料/次世代育成支援に関する二一ス調査[就学前児童用・小学生用]（平成15年度）

(3) 青少年に関わる状況

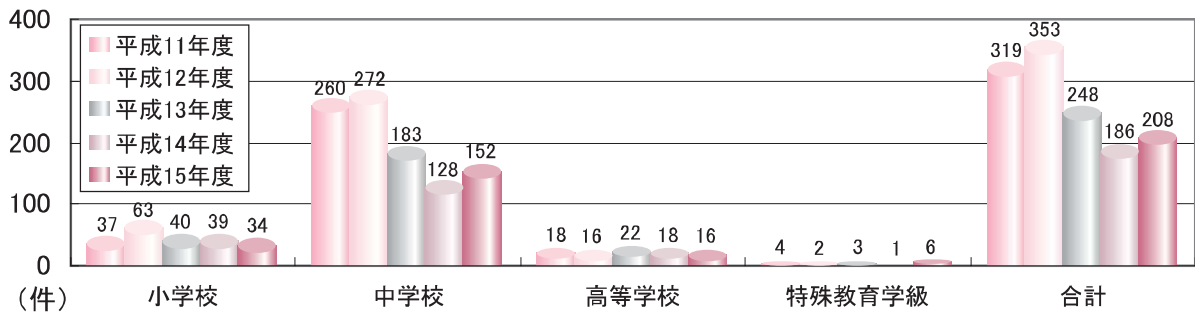
① いじめや不登校の状況

福岡県内でのいじめの発生件数は、平成11・12年度は、合計で300件を超えていましたが、平成13年度以降は、年間200件程度となっており、減少しています（図表22）。

福岡県内で年間30日以上欠席した不登校の児童生徒数は、全国的な傾向と同様に、平成14・15年度と2年連続で減少しています（図表23）。

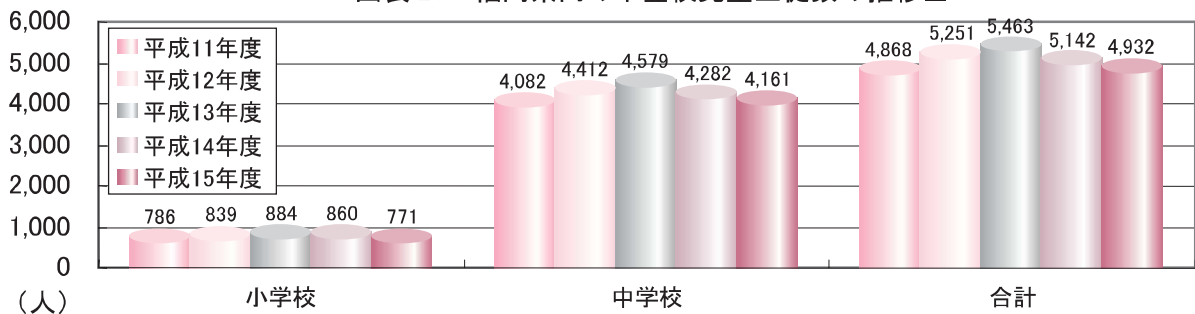
なお、本市の不登校対策事業である適応指導教室（らるご久留米）においては、30～50名程度の児童生徒を受入れています（図表24）。

■図表22 福岡県内のいじめ発生件数の推移■



資料／文部科学省「生徒指導上の諸問題の現状について」（各年度版）

■図表23 福岡県内の不登校児童生徒数の推移■



資料／文部科学省「生徒指導上の諸問題の現状について」（各年度版）

■図表24 適応指導教室（らるご久留米）受入児童生徒数の推移■（単位：人）

	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
小学校	13	12	11	10	8
中学校	44	38	34	28	27
合計	57	50	45	38	35

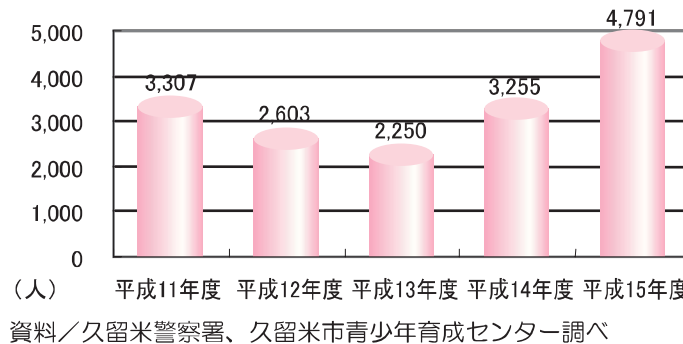
資料／久留米市青少年育成センター調べ（各年度3月現在在籍児童・生徒数）
（注）久留米市外からの受入数含む

②少年非行の状況

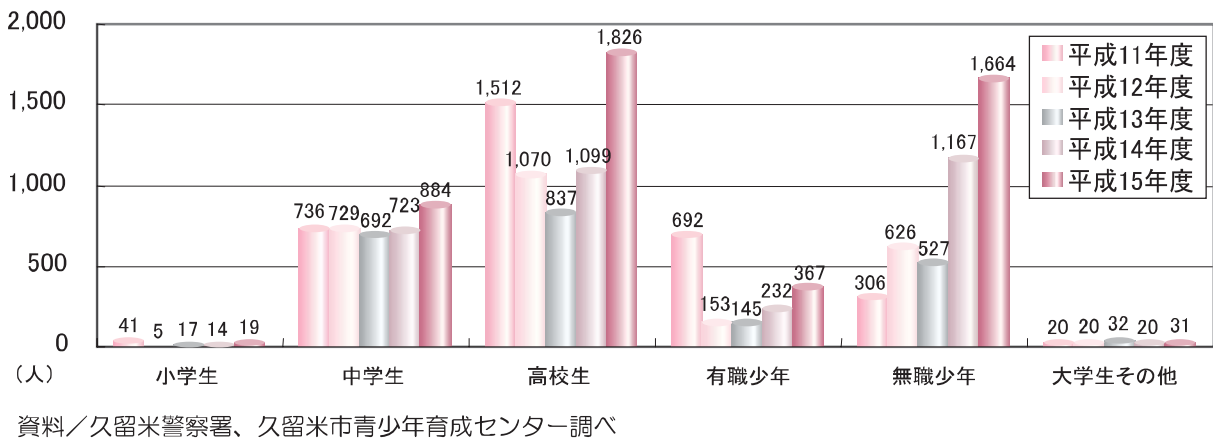
久留米警察署及び青少年育成センターでの非行少年等に対する指導状況をみると、指導した少年の人数は、平成11年度から平成13年度にかけて減少しましたが、平成14年度以降は増加に転じ、平成15年度では4,791人となっています（図表25）。学職別にみると、年度間でばらつきがあるものの、高校生や無職少年が多く、特に無職少年の増加が顕著です（図表26）。行為別にみると、喫煙や深夜徘徊が多くなっています（図表27）。

また、刑法犯少年の検挙補導状況をみると、検挙補導人数は増加傾向にあり、平成15年は665人となっています（図表28）。

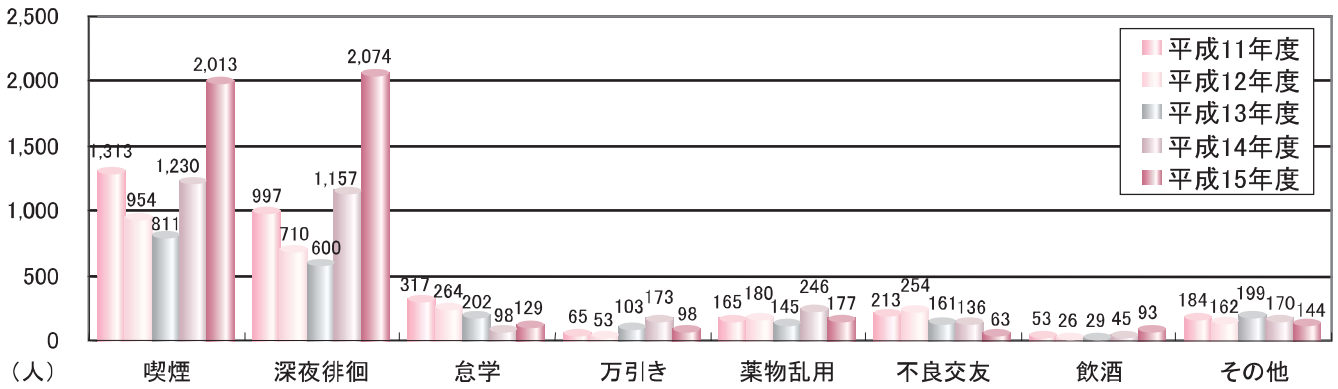
■図表25 旧久留米市地区での指導状況の推移■



■図表26 旧久留米市地区での指導状況（学職別）の推移■

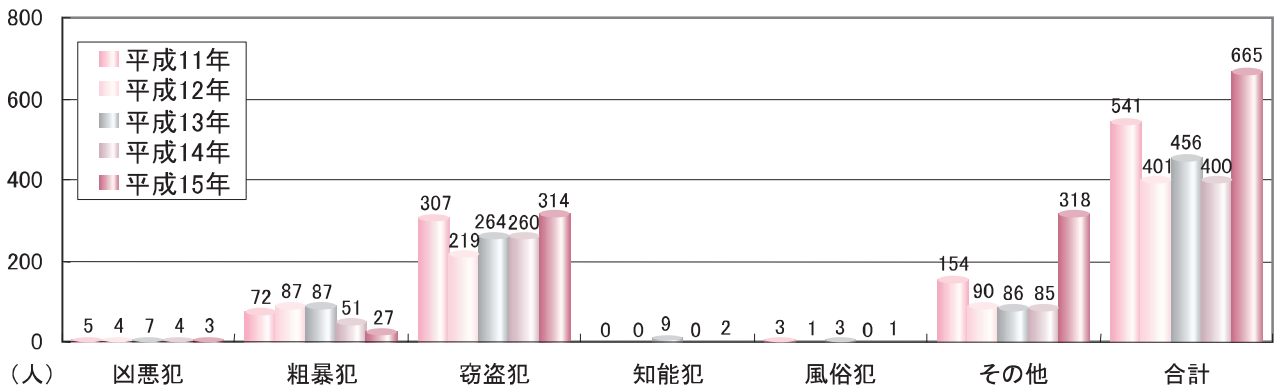


■図表 27 旧久留米市地区での指導状況（行為別）の推移■



資料／久留米警察署、久留米市青少年育成センター調べ

■図表 28 刑法犯少年の検挙補導状況の推移■



資料／福岡県警察本部調べ

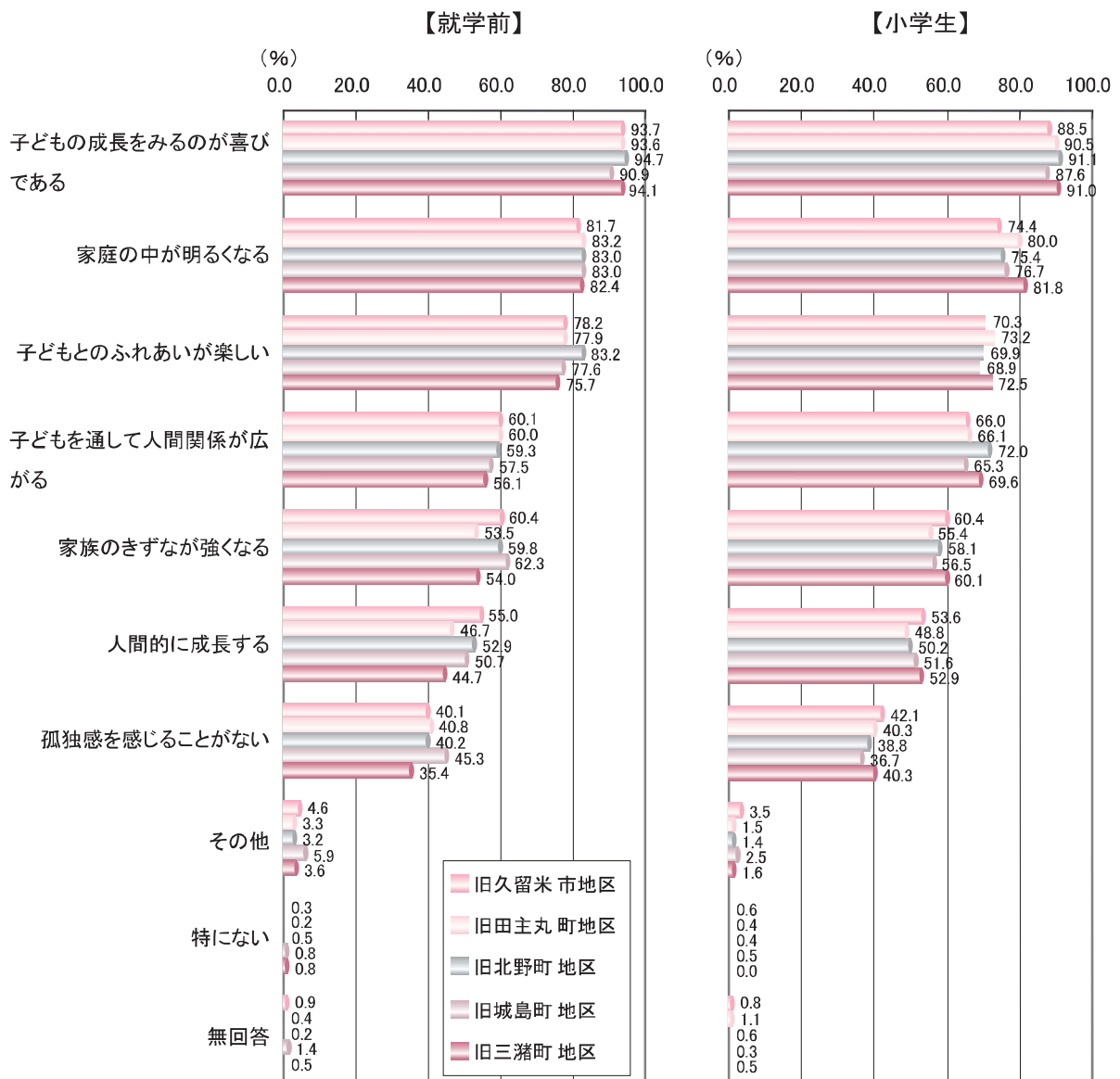
(4) 子育てに対する保護者の意識

① 子育ての喜び

「子どもの成長をみるのが喜びである」や「家庭の中が明るくなる」などをはじめ、多くの保護者が子育てに様々な喜びを感じています(図表29)。

また、保護者の5~6割程度は、「子どもを通して人間関係が広がる」、「(保護者自身が)人間的に成長する」と回答しており、子育てが保護者自身の人間的な成長につながっていることがわかります。

■図表29 子育てをされていてよかったこと・喜びを感じたこと■(複数回答)



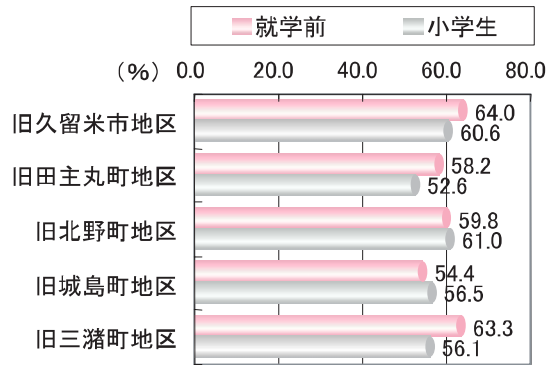
資料/次世代育成支援に関するニーズ調査[就学前児童用・小学生用](平成15年度)

②子育ての不安・悩み

多くの保護者は、子育てに喜びを感じていますが、その一方で、子育てに困難を感じたり、自信が持てなかつたりすることも少なくありません（図表 30、31）。

子育ての悩みは、就学前児童・小学生の保護者に共通して、「子どもを叱りすぎているような気がする」と上位にあがっています。その他、就学前児童の保護者では、「食事・栄養」や「病気や発達・発育」、「仕事や自分のやりたいことが十分にできない」、小学生の保護者では「教育」や「子どもとの時間が十分にとれない」、「友だちづきあい（いじめ等を含む）」などの割合が高くなっています（図表 32）。

■図表 30 子育てに困難を感じる事
（「よくある」「ときどきある」の割合）



■図表 31 子育てに自信が持てない事
（「よくある」「ときどきある」の割合）



資料/次世代育成支援に関する二一ズ調査[就学前児童用・小学生用]（平成 15 年度）

■図表 32 子育ての悩み（上位 5 項目） ■（複数回答）

【就学前】	旧久留米市地区	旧田主丸町地区	旧北野町地区	旧城島町地区	旧三潁町地区
1位	子どもを叱りすぎているような気がする事 (44.5%)	子どもを叱りすぎているような気がする事 (39.8%)	子どもを叱りすぎているような気がする事 (39.8%)	子どもを叱りすぎているような気がする事 (39.7%)	子どもを叱りすぎているような気がする事 (39.5%)
2位	食事や栄養に関する事 (39.3%)	食事や栄養に関する事 (37.9%)	食事や栄養に関する事 (36.8%)	食事や栄養に関する事 (35.4%)	食事や栄養に関する事 (36.7%)
3位	仕事や自分のやりたいことが十分にできない事 (39.1%)	病気や発達・発達に関する事 (36.3%)	仕事や自分のやりたいことが十分にできない事 (36.3%)	病気や発達・発達に関する事 (32.3%)	仕事や自分のやりたいことが十分にできない事 (36.4%)
4位	病気や発達・発達に関する事 (34.8%)	仕事や自分のやりたいことが十分にできない事 (29.5%)	病気や発達・発達に関する事 (36.1%)	子どもとの時間を十分にとれない事 (27.5%)	病気や発達・発達に関する事 (32.3%)
5位	子どもの教育に関する事 (29.9%)	子どもの教育に関する事 (27.9%)	子どもとの時間を十分にとれない事 (30.8%)	仕事や自分のやりたいことが十分にできない事 (26.9%)	子どもの教育に関する事 (28.2%)

【小学生】	旧久留米市地区	旧田主丸町地区	旧北野町地区	旧城島町地区	旧三潴町地区
1位	子どもの教育に関すること(43.1%)	子どもの教育に関すること(38.3%)	子どもの教育に関すること(38.8%)	子どもの教育に関すること(32.7%)	子どもの教育に関すること(38.5%)
2位	子どもを叱りすぎているような気がする(41.7%)	子どもを叱りすぎているような気がする(32.8%)	子どもを叱りすぎているような気がする(38.0%)	子どもとの時間を十分にとれないこと(32.4%)	子どもを叱りすぎているような気がする(32.7%)
3位	子育てで出費がかさむこと(28.6%)	子どもとの時間を十分にとれないこと(30.4%)	友だちづきあい(いじめ等を含む)に関すること(24.8%)	子どもを叱りすぎているような気がする(31.6%)	友だちづきあい(いじめ等を含む)に関すること(27.5%)
4位	友だちづきあい(いじめ等を含む)に関すること(28.3%)	友だちづきあい(いじめ等を含む)に関すること(24.4%)	子どもとの時間を十分にとれないこと(24.6%)	友だちづきあい(いじめ等を含む)に関すること(23.3%)	子どもとの時間を十分にとれないこと(24.3%)
5位	子どもとの時間を十分にとれないこと(27.8%)	病気や発育・発達に関すること(20.0%)	病気や発育・発達に関すること(23.2%)	子育てで出費がかさむこと(18.2%)	子育てで出費がかさむこと(23.0%)

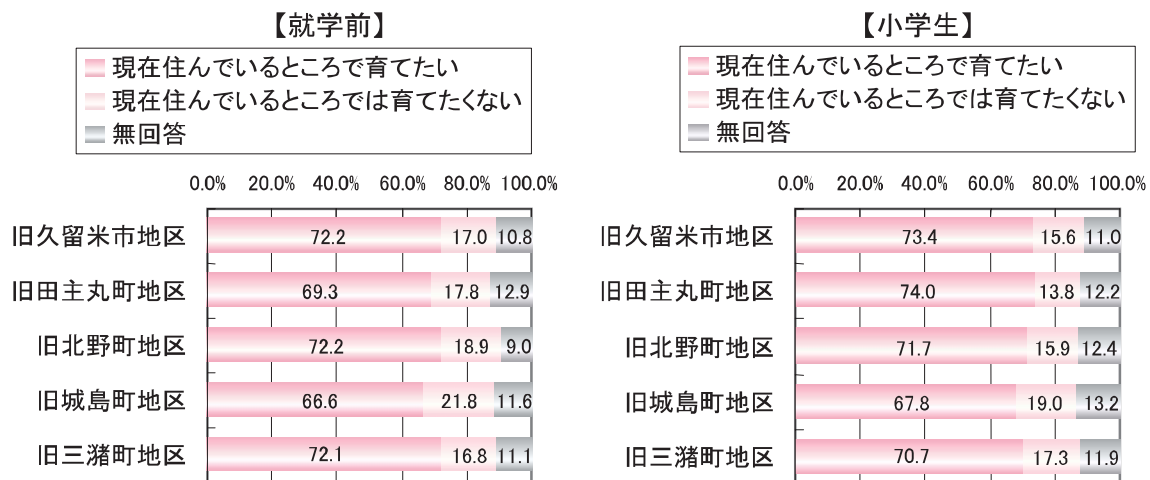
資料/次世代育成支援に関するニーズ調査[就学前児童用・小学生用](平成15年度)

(5) 子育ての場としての評価

① 子育て意向

就学前児童・小学生の保護者の7割前後は、今後も現在住んでいるところで子どもを育てたいと考えており、子育ての場としての本市の満足度は比較的高いといえます(図表33)。

■図表33 現在住んでいるところでの今後の子育て意向■



資料/次世代育成支援に関するニーズ調査[就学前児童用・小学生用](平成15年度)

現在住んでいるところで子どもを育てたいと思う理由では、「自然があるから」や「風土がのんびりしているから」、「人情味があるから」などが上位にあがっています（図表34）。

地区別にみると、旧久留米市地区では「病院がたくさんあるから」、旧田主丸町地区・旧北野町地区・旧城島町地区・旧三潴町地区では「近隣のつきあいが活発だから」や「子ども会などのグループ活動が活発だから」などが、特徴的な項目として上位にあがっています。

■図表34 現在住んでいるところで子どもを育てたい理由（上位5項目） ■（複数回答）

【就学前】	旧久留米市地区	旧田主丸町地区	旧北野町地区	旧城島町地区	旧三潴町地区
1位	自然があるから (45.9%)	自然があるから (87.0%)	自然があるから (74.5%)	自然があるから (63.0%)	自然があるから (62.4%)
2位	病院がたくさんあるから (42.2%)	風土がのんびりしているから (43.8%)	風土がのんびりしているから (45.2%)	風土がのんびりしているから (45.1%)	風土がのんびりしているから (41.6%)
3位	風土がのんびりしているから (22.4%)	人情味があるから (28.7%)	人情味があるから (26.1%)	人情味があるから (29.8%)	遊び場がたくさんあるから (24.0%)
4位	人情味があるから (15.0%)	近隣のつきあいが活発だから (16.9%)	近隣のつきあいが活発だから (15.3%)	近隣のつきあいが活発だから (18.7%)	人情味があるから (19.0%)
5位	子育てに関する情報が豊富だから (14.6%)	遊び場がたくさんあるから (9.8%)	子ども会などのグループ活動が活発だから (12.4%)	子ども会などのグループ活動が活発だから (7.2%)	近隣のつきあいが活発だから (10.8%)

【小学生】	旧久留米市地区	旧田主丸町地区	旧北野町地区	旧城島町地区	旧三潴町地区
1位	自然があるから (50.7%)	自然があるから (89.7%)	自然があるから (72.0%)	自然があるから (57.5%)	自然があるから (64.6%)
2位	病院がたくさんあるから (35.8%)	風土がのんびりしているから (43.6%)	風土がのんびりしているから (49.0%)	風土がのんびりしているから (50.7%)	風土がのんびりしているから (45.2%)
3位	風土がのんびりしているから (29.3%)	人情味があるから (30.5%)	人情味があるから (29.7%)	人情味があるから (36.2%)	人情味があるから (24.5%)
4位	人情味があるから (21.7%)	近隣のつきあいが活発だから (17.5%)	近隣のつきあいが活発だから (22.1%)	近隣のつきあいが活発だから (21.3%)	近隣のつきあいが活発だから (14.3%)
5位	文化が豊かだから (13.5%)	子ども会などのグループ活動が活発だから (12.6%)	子ども会などのグループ活動が活発だから (21.5%)	子ども会などのグループ活動が活発だから (19.0%)	子ども会などのグループ活動が活発だから (13.1%)

資料/次世代育成支援に関するニーズ調査[就学前児童用・小学生用]（平成15年度）

一方、現在住んでいるところで子どもを育てたくないと思う理由では、「遊び場が少ないから」、「教育環境が整っていないから」、「子育てに関する情報が不足しているから」、「社会に活気がないから」などが上位にあがっています（図表35）。

地区別にみると、旧久留米市地区では「交通・犯罪・災害などで危険だから」や「自然にふれる機会が少ないから」、旧田主丸町地区・旧北野町地区・旧城島町地区・旧三潴町地区では「近隣のつきあいがわずらわしいから」などが、特徴的な項目として上位にあがっています。

■図表35 現在住んでいるところで子どもを育てたくない理由（上位5項目） ■（複数回答）

【就学前】	旧久留米市地区	旧田主丸町地区	旧北野町地区	旧城島町地区	旧三潴町地区
1位	交通・犯罪・災害などで危険だから (47.2%) / 遊び場が少ないから (47.2%)	遊び場が少ないから (49.4%)	遊び場が少ないから (53.7%)	遊び場が少ないから (51.9%)	教育環境が整っていないから (38.5%)
2位	自然にふれる機会が少ないから (27.2%)	子育てに関する情報が不足しているから (43.7%)	社会に活気がないから (36.6%)	社会に活気がないから (45.5%)	遊び場が少ないから (33.8%)
3位	教育環境が整っていないから (22.8%)	社会に活気がないから (42.5%)	教育環境が整っていないから (34.1%)	教育環境が整っていないから (33.8%)	社会に活気がないから (27.7%) / 子育てに関する情報が不足しているから (27.7%)
4位	子育てに関する情報が不足しているから (19.0%)	教育環境が整っていないから (34.5%) / 近隣のつきあいがわずらわしいから (34.5%)	子育てに関する情報が不足しているから (30.5%)	子育てに関する情報が不足しているから (23.4%)	子ども同士のつながりがうすいから (23.1%)
5位	社会に活気がないから (16.9%)	芸術・文化にふれる機会が少ないから (19.5%)	近隣のつきあいがわずらわしいから (29.3%)	近隣のつきあいがわずらわしいから (15.6%) / 交通・犯罪・災害などで危険だから (15.6%)	近隣のつきあいがわずらわしいから (21.5%)

【小学生】	旧久留米市地区	旧田主丸町地区	旧北野町地区	旧城島町地区	旧三潴町地区
1位	交通・犯罪・災害などで危険だから (49.7%)	教育環境が整っていないから (50.0%)	遊び場が少ないから (44.9%)	社会に活気がないから (57.3%)	教育環境が整っていないから (37.7%)
2位	遊び場が少ないから (44.3%)	遊び場が少ないから (46.1%) / 社会に活気がないから (46.1%)	社会に活気がないから (37.2%)	遊び場が少ないから (40.0%) / 教育環境が整っていないから (40.0%)	遊び場が少ないから (36.4%)
3位	教育環境が整っていないから (35.7%)	近隣のつきあいがわずらわしいから (38.2%)	教育環境が整っていないから (34.6%)	近隣のつきあいがわずらわしいから (21.3%)	近隣のつきあいがわずらわしいから (35.1%)
4位	自然にふれる機会が少ないから (31.4%)	芸術・文化にふれる機会が少ないから (30.3%)	近隣のつきあいがわずらわしいから (30.8%)	子育てに関する情報が不足しているから (17.3%)	社会に活気がないから (32.5%)
5位	社会に活気がないから (24.6%)	子育てに関する情報が不足しているから (26.3%)	子育てに関する情報が不足しているから (20.5%)	芸術・文化にふれる機会が少ないから (12.0%)	芸術・文化にふれる機会が少ないから (29.9%)

資料／次世代育成支援に関するニーズ調査[就学前児童用・小学生用]（平成15年度）

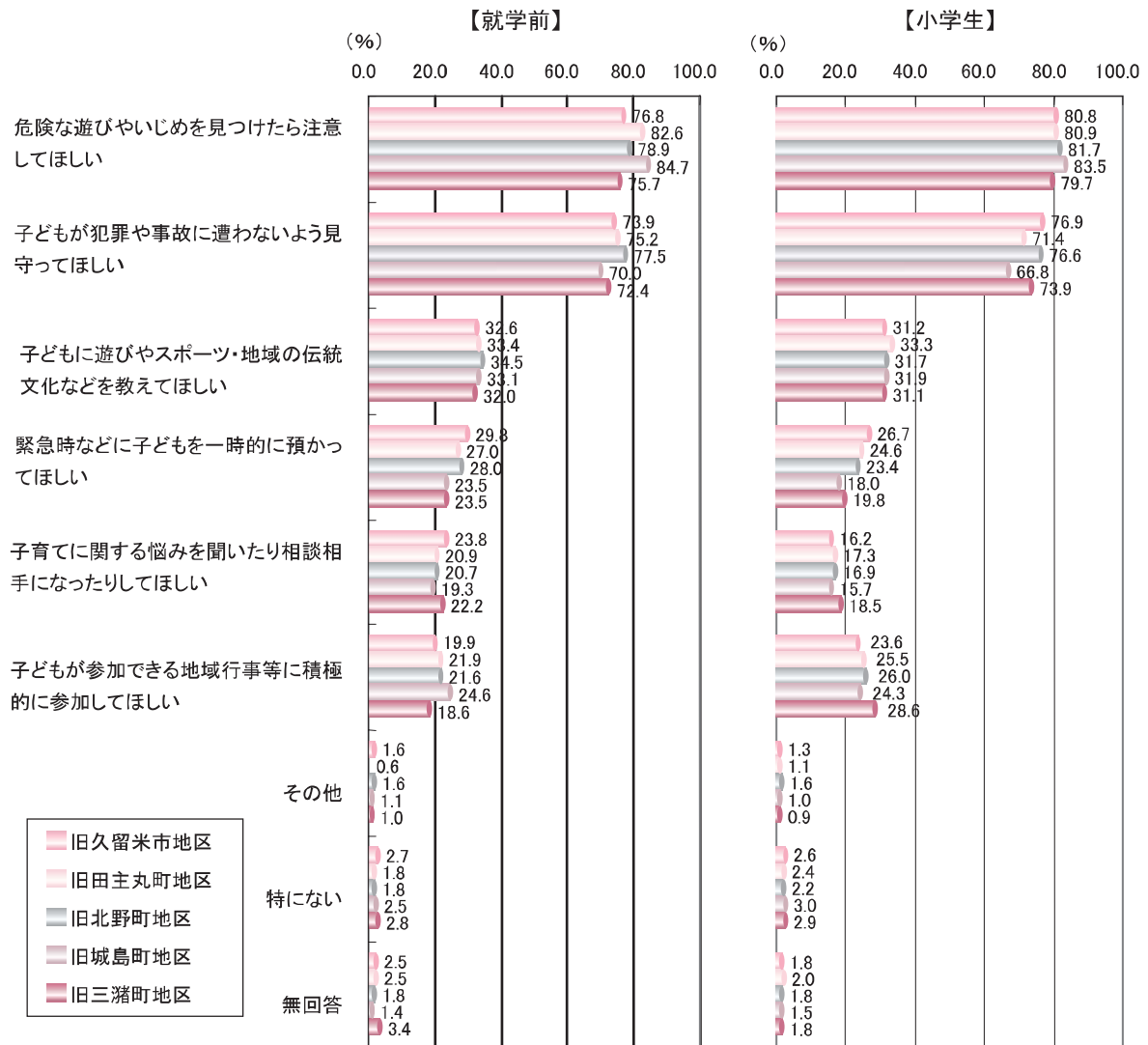
(6) 子育て支援について

①子育て支援として地域に期待すること

子育て中の保護者が、子育て支援として地域の人に期待することでは、「危険な遊びやいじめを見つけたら注意してほしい」や「子どもが犯罪や事故に遭わないよう見守ってほしい」などの割合が高くなっています。地域の人に期待することは特にないと回答した人は3%未満と極わずかであり、多くの保護者が地域の人々の支援を期待していることがわかります(図表36)。

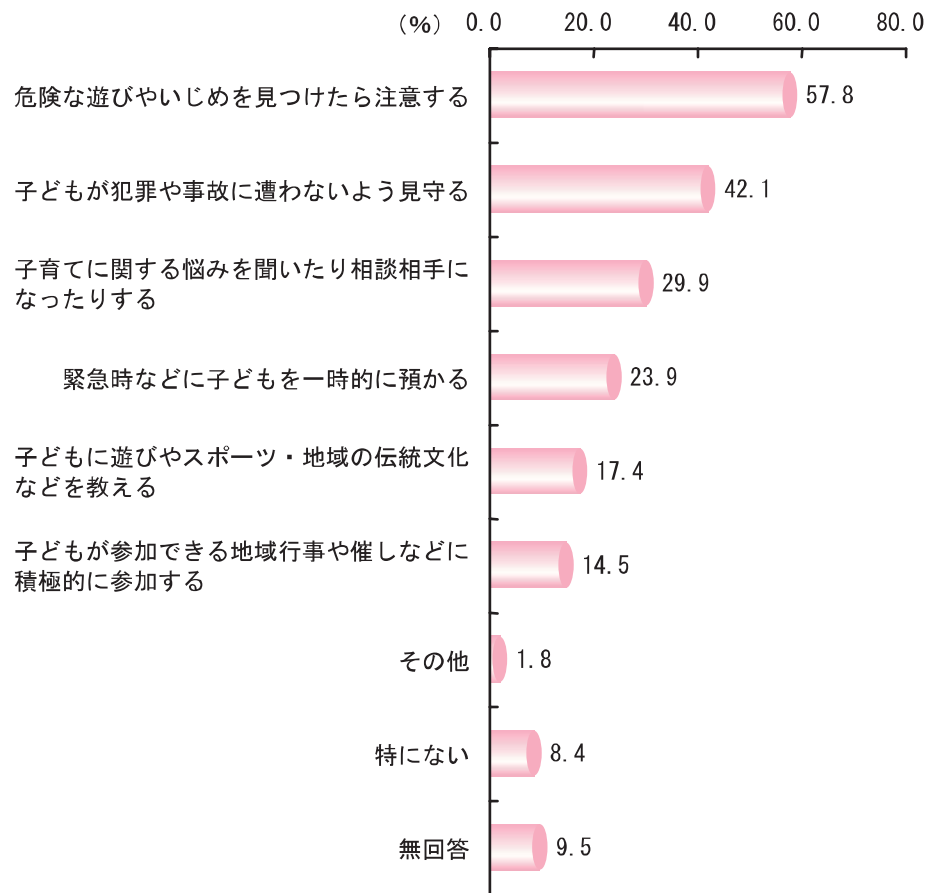
また、市民もこのような支援に協力できると考えている人が多く、このような支援意識を持つ人々を取り入れるためのしくみづくりが大切です(図表37)。

■図表36 子育て支援として身近な地域の人に期待すること■ (複数回答)

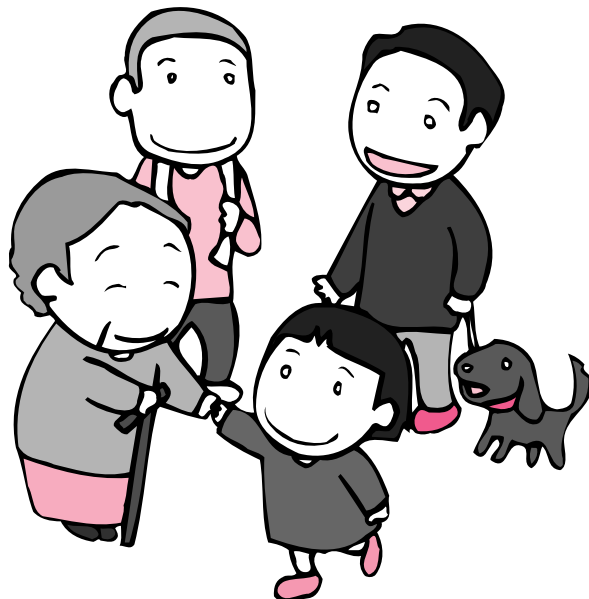


資料/次世代育成支援に関する二一ズ調査[就学前児童用・小学生用](平成15年度)

■図表 37 子育て支援や子どもの健全育成のためにできること■（複数回答）



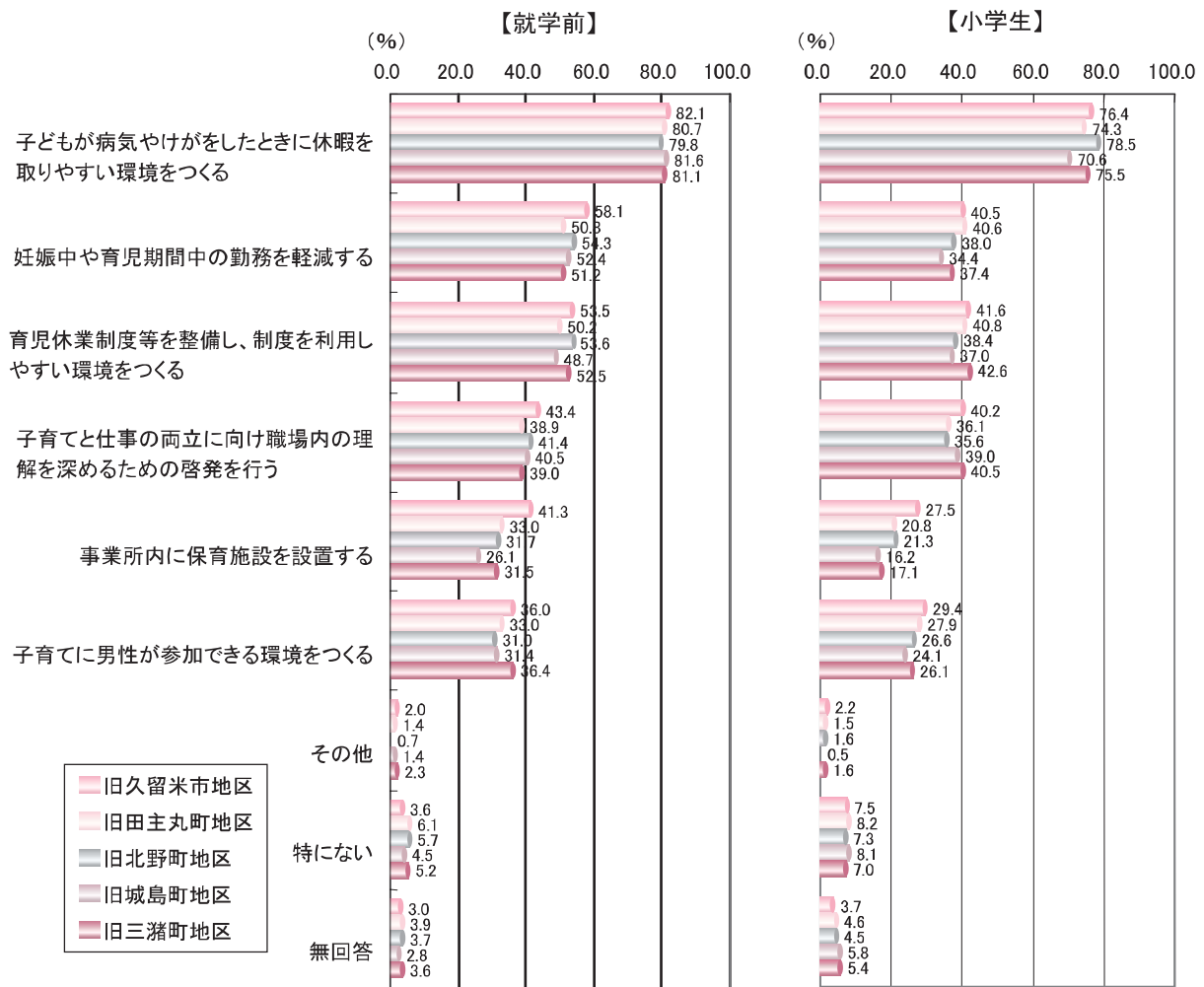
資料／次世代育成支援に関する意識調査〔一般成人用〕（平成15年度）
 （注）旧久留米市地区のみ実施



②子育て支援として企業に期待すること

子育て中の保護者が、子育て支援として企業に期待することでは、「子どもが病気やけがをしたときに休暇を取りやすい環境をつくる」の割合が7～9割と高く、以下、「妊娠中や育児期間中の勤務を軽減する」、「育児休業制度等を整備し、制度を利用しやすい環境をつくる」などとなっています（図表38）。

■図表38 子育てと仕事の両立支援として企業に期待すること■（複数回答）

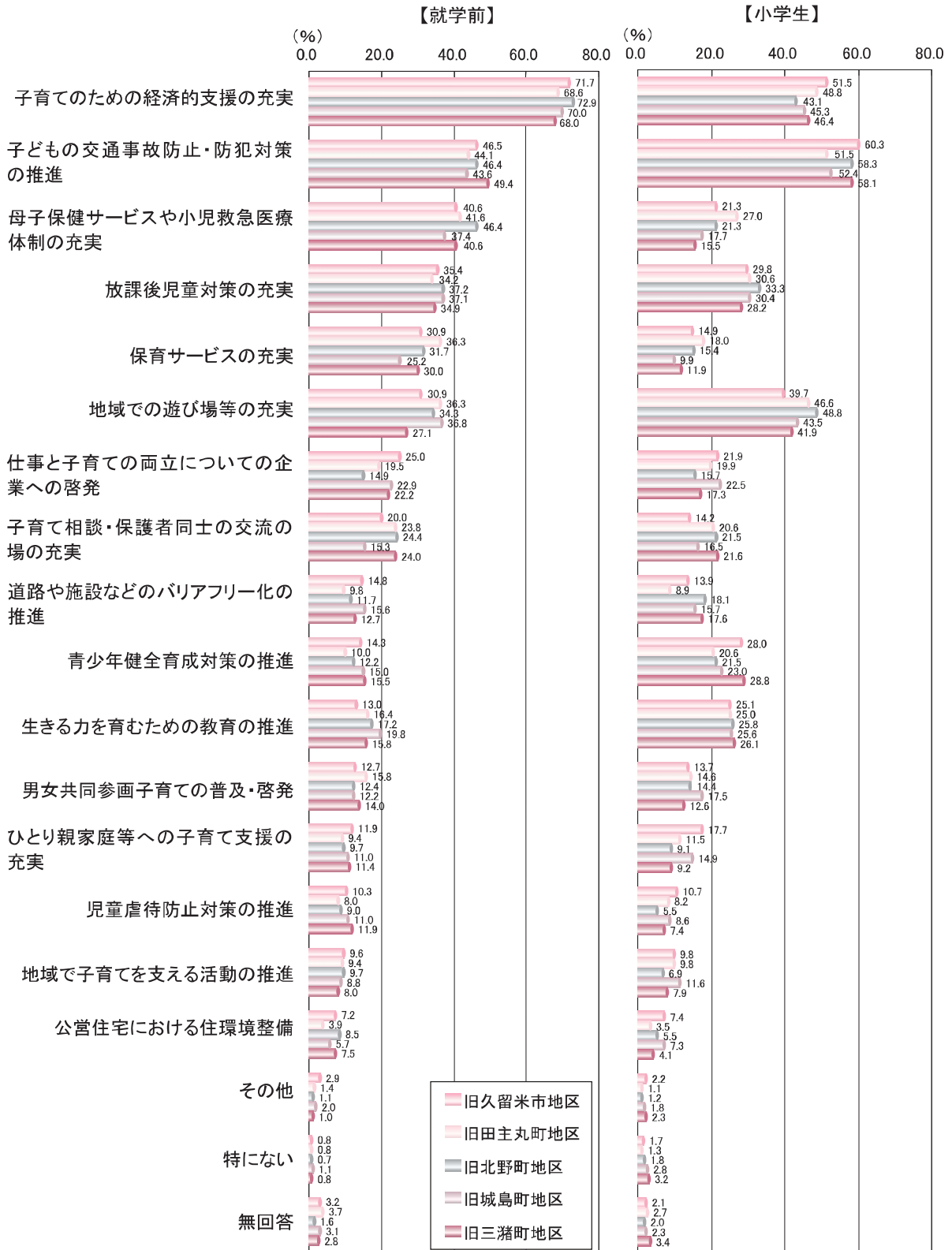


資料／次世代育成支援に関するニーズ調査[就学前児童用・小学生用]（平成15年度）

③子育て支援として行政に期待すること

子育て中の保護者が、子育て支援として行政に期待することは、就学前児童・小学生の保護者とも、「子育てのための経済的支援の充実」や「子どもの交通事故防止・防犯対策の推進」などの割合が高くなっています（図表39）。

■図表 39 子育て支援として行政に期待すること■（複数回答）



資料／次世代育成支援に関する二一ズ調査[就学前児童用・小学生用]（平成15年度）